様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：３２６２０
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2014～2016
課題番号：２６８６１８７３

研究課題名（和文）医療施設における環境要因としての病床機能に適合した看護提供方式のモデル構築

研究課題名（英文）The effect of nursing care delivery models on hospital outcomes based on care settings

研究代表者
大西　麻未（ONISHI, MAMI）

順天堂大学・医療看護学部・准教授

研究者番号：１０４５１７６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、病床機能に応じて効果的な看護提供方式を検討することを目的として、看護提供方式と病棟アウトカムとの関連について調査を行った。文献検討に基づき、看護提供方式を識別する調査票を作成し、急性期病棟と回復期病棟で調査を実施した。その結果、患者アウトカムとの関連は示されなかったものの、チームが目標管理などの組織活動も共有している病棟ではより学習的・支援的な組織風土があった。また、ペア方式をとっている病棟では、仕事に対する満足度が高いという結果が得られた。これらの傾向は病床機能間で同様であり、どちらにおいても日々の看護の提供と職場改善のための相互支援を結びつけることが重要であると考えられた。

研究成果の概要（英文）：This study investigated the effect of nursing care delivery models on hospital outcomes to develop effective care models based on care settings. Based on a literature review, we developed a questionnaire to define the nursing care delivery model. We performed the investigation in both acute care and rehabilitation settings. We did not find a relationship between the nursing care delivery model and patient outcomes. However, nurses operating in teams and sharing organizational duties such as quality improvement (along with their daily nursing care duties) scored higher ratings for several indicators of a positive workplace environment. We found that job satisfaction was higher in nurses working in pairs than in those working in other models. These results were similar for nurses working in acute care and rehabilitation wards, indicating that use of combined nursing support models, both in daily nursing and organizational duties, improves the nursing work environment.

研究分野：看護管理学

キーワード：看護提供方式　職場環境の質

１．研究開始当初の背景

医療提供体制の再編が進められる中、医療施設における看護の役割機能や、看護師の働き方が変容しつつある。また、ケアが提供される場の特性にかかわらず、重症度の高い患者に対する高いケア技術や、退院支援などにおける高い判断力・調整力が求められるようになり、看護師一人一人の実践を相互に支援する仕組みを充実させる必要性が高まっていると言える。

そのような仕組みの一つとして、看護提供方式がある。看護提供方式は、看護職員が患者ケアをどのように担当するか、看護職員間でどのようにコミュニケーションをとるかといった業務プロセスを規定する基本的な仕組みであり、看護の継続性・個別性や業務効率を左右するとともに、看護職員の育成や仕事に対する意欲、職場風土にも影響を及ぼすなど、看護の質の様々な側面と関連することが知られている。これまで、我が国では、プライマリナーシングやチームナーシングなどが基本的類型として導入されるとともに、一部機能別や受け持ち制の仕組みを併用するなど、さまざまな工夫が加えられてきた。これらの方式は、それぞれメリット・デメリットが論じられ、看護管理者の組織管理上の判断に寄与してきた。

そして近年はさらにこれらに加え、患者を受け持たずスタッフへの助言や他職種との連携を担う人材を配置する試みや、2 人一組でともに受け持ち患者の看護を行う方式などが導入され、超過勤務の減少や業務の効率化、人材育成などの成果をもたらしたことが報告されている。これらの新たな取り組みは、特に急性期病院を中心とした若年の看護師の割合の増加など、看護を取り巻く環境変化に起因するものであるが、病床特性にかかわらず国内に普及しつつある。しかし、これらの取り組みを含め、看護提供方式を職場環境やケアの質との関連から評価した研究は少ない。海外でも、受持制やチームナーシングなどの看護提供方式が、患者や看護職員からみたケアの質に及ぼす影響についての調査報告がいくつかあるものの、一貫した結果は得られていない。

看護提供方式は、看護職員のスキルミックスや経験年数などの構成上の特徴を踏まえて構築するものであり、組織特性などの環境要因に応じて適切な方法を検討する必要があると考えられる。医療施設の組織特性はさまざまな視点からとらえることができるが、今後管理の方法論を検討する上で重要になる組織特性のひとつとして、各病床の役割機能がある。病床機能は今後、分化が進むと予測され、各組織の特徴や看護職員の役割機能の差異をより明確にするものと考えられる。看護管理者が質の高い看護ケアの提供を保証するためには、自施設の機能をふまえて効果的な職員間のコミュニケーション方法や業務分担の再編を行う必要があり、そのための基盤となる知識の提供は重要な課題であると考えられる。

２．研究の目的

本研究は、看護提供方式と職場環境や看護ケアの質との関連について明らかにするとともに、急性期と回復期リハビリテーションの 2 種類の病床機能を取り上げて調査を行うことで、病床機能に応じて効果的な看護提供方式を検討することを目的とした。

３．研究の方法

1)　看護提供方式の構成要素及び看護提供方式のアウトカム、関連要因に関する文献検討

看護提供方式の効果に関する研究が不足している背景の一つとして、看護提供方式は多面的な要素によって構成されていること、施設によってその名称や運用が異なるためであることが考えられた。そのため、看護提供方式を特徴づける主要な構成要素を抽出することを目的に、文献検討を行った。

同時に、看護提供方式の効果を測定するために適切なアウトカム指標を検討すること、看護提供方式とアウトカムの関係を検討するために調整するべき他の要因について仮説を立てることも、文献検討の目的とした。対象文献は、看護提供方式や看護モデルの実践報告およびその効果についての調査報告が行われるようになった 1970 年代以降に発表された文献で、看護提供方式の変更とその評価、および看護提供方式の比較をテーマとした国内外の文献を収集した。このうち、何らかの数量的な指標を用いて、患者にとってのケアの質、あるいは看護師にとっての職場環境や職務の状況をアウトカムとして取り上げ、看護提供方式との関連をみているものを対象として検討した。

2)　看護提供方式の特性と看護師の仕事実感、患者からみた看護サービスとの関連に関する調査

(1) 調査内容

文献検討によって明らかになった、看護提供方式を特徴づける構成要素を基に、現在国内の紹介文献から追加される要素を加え、それらの有無や種類を回答できる質問紙を作成した。作成した質問項目は、看護管理者を対象に、回答可能な内容になっているかを確認した。また、アウトカム指標については多面的にとらえることが適切であると判断されたため、NQI 看護質指標研究会の作成した調査票を用いて、看護師の仕事に関する実感調査及び患者の経験に基づく看護サービスの質評価を実施した。看護師の仕事に関する実感調査は、看護師のキャリアアイデンティティ、質の高いケアの実施、質の高いケアへのコミットメント、職務満足、仕事特性、組織風土等の測定を行うものであり、患者の経験に基づく看護サービス評価は、看護ケアの

質のプロセス指標である知識・技術への信頼、機能維持・向上の支援、安心・情緒的支援、患者意思の尊重、アウトカム指標である基本的ケア、教育・情報提供、全体的満足度、退院後生活の支援等を評価する調査票であり、いずれも尺度としての信頼性・妥当性が確認されている。

(2) 調査方法

全国の一般病院から、急性期病床または回復期リハビリテーション病床を有する病院を無作為に抽出し、研究協力を依頼した。文書で研究の趣旨説明を行い、研究協力の得られた 5 病院 40 病棟で調査を実施した。看護師調査、患者調査のいずれか一方のみが協力が可能な病院についても、対象として依頼した。

対象者は、対象病棟の責任者および看護師、入院患者とした。病棟責任者には、看護師の経験年数や教育レベル、診療科、入院患者数などの病棟属性に加え、看護提供方式を尋ねる質問に回答してもらった。対象者のうち、患者については、調査期間に退院が決まり、意識がはっきりしていて判断力があり、症状が落ち着いていること、自身で調査票に記入できる、あるいは家族の代読・代筆が可能であることを条件とし、病棟責任者の判断に基づいて配布・回収を依頼した。

(3) 分析方法

病棟ごとに各変数の平均値を算出し、看護提供方式の構成要素との関連をみた。多変量解析については、サンプル数が限られていたことから個人単位の分析も行った。単変量間の関連を基に、看護提供方式の構成要素を独立変数、看護師の仕事に関する実感の各指標、患者の経験に基づく看護サービス評価の各指標を従属変数とする重回帰分析を行った。

(4) 倫理的配慮

質問紙調査については、順天堂大学医療看護学部研究等倫理委員会の承認を得て実施した。(受付番号 27-25)

４．研究成果

1) 看護提供方式の構成要素及び看護提供方式のアウトカム、関連要因に関する文献検討

(1) 看護提供方式の構成要素

文献検討の結果、看護提供方式を構成する要素として、業務の割り当て方法、看護ケアに対する責任の期間、看護ケア提供者の役割範囲、業務中の支援体制、看護展開に対する支援体制の６つの次元が暫定的に導き出された。

業務の割り当て方法は、看護師の日々の業務が、受け持ち患者を単位として決定されているか、個々の業務を単位として決定されているかを識別する次元である。看護ケアに対する責任の期間は、その日のケアに対して責任を持つか、退院まで等の一定の期間にわたって責任を持つかという次元であった。

看護ケア提供者の役割範囲は、日々の看護ケアの提供を主とするか、看護計画に対する責任を含むのかといった次元であり、業務中の支援体制は、リーダーや他メンバーによる助言・指導役割の有無、ケアの補助役割の有無であった。看護展開の支援体制は、看護計画の展開に対する評価・支援体制に関する次元であった。

(2) 看護提供方式のアウトカムに関する文献検討

看護提供方式の導入効果や、異なる看護提供方式の比較に関する文献検討においては、チームナーシング、プライマリーナーシング、モジュラーナーシング、あるいはこれらの混合モデルを評価したものが中心であった。国内同様に、海外文献でも看護提供方式の名称には多様性があり、プライマリーナーシングとほぼ方法として同様である看護提供方式が「Total patient care」というケアモデルとして言及されていることがあった。一方、「shared care」などの名称を用いているものはチームナーシングに近い類型と考えられた。

看護提供方式と患者アウトカムとの関連の研究では、チーム制による看護の提供の効果を検証したものが多いという結果であった。アウトカムとして、薬剤エラーの減少については複数の報告が認められた。しかし、他の有害事象や患者満足度の調査からは、差がないとするものや、否定的な結果も報告されていた。また、多くが米国で行われた研究であり、「チームモデル」の意味することが Licensed Practical Nurse と Registered Nurse の混合チームであるケースが多いため、本研究の目的に沿って結果を解釈するには注意が必要であると考えられた。

看護提供方式と看護職員のアウトカムとの関連の研究では、コミュニケーションや相互支援などの業務プロセスの指標、専門職としての学習や職務満足などの職務環境の質を表す指標など、さまざまな異なるアウトカムが測定されており、一貫した結果を見いだすのは困難であった。

国内文献については、プライマリーナーシングやモジュラーナーシングの導入効果を調査したものが多く抽出された。多くが前後比較研究であり、チーム制をとりながら患者受け持ち制を併用する方式によって、看護師の責任意識が高まることや、仕事に対する満足度が高まることなどが明らかにされていたものの、信頼性・妥当性の確認された指標を用いた調査はほとんどないという結果であった。しかし、近年普及が進んでいる、パートナーシップに基づく看護提供体制では、時間外勤務や職業性ストレスの観点で、肯定的な変化の報告が認められた。

看護提供方式とアウトカムの関係を検討する上で考慮するべき他の要因については、経験年数等のスタッフ構成の要因を除いては取り上げられている研究があまり見当たらず、文献検討からはほとんど新たには抽出

されなかった。しかし、国内の実践報告等を参考に、リーダー教育の有無や、看護補助者の機能が業務の支援体制や業務量に影響を及ぼすことは予測された。

2)看護提供方式の特性と看護師の仕事実感、患者からみた看護サービスとの関連に関する調査

(1) 文献検討に基づく調査票の設計

文献検討の結果を踏まえ、看護提供方式を識別する質問紙を検討した。抽出された6次元を参考にしつつも、国内の医療施設の実情に合った項目を作成することを目指した。たとえば、業務の割り当て方法については、国内の医療施設では、患者を単位として看護師の業務が割り当てられる例がほとんどであることから、受け持ちの方法を尋ねる項目とし、ペア方式か個人の受け持ちであるかを識別する質問内容とした。最終的に、患者の受け持ち方法、受け持ち看護師の役割範囲、看護展開の支援体制、業務中の支援体制（補助役割の有無、他職種との関わりに対するリーダーの支援）、チーム活動の範囲、チーム内の情報共有の方法について尋ねる項目で構成されるものとした。

看護提供方式のアウトカムについては、先行研究で報告される指標が多様であることから、限定せず幅広くとらえるために、NQI看護質指標研究会の調査票を用いることとした。

(2) 質問紙調査の結果

調査を実施した5病院40病棟の719名の看護師、368名の入院患者から回答が得られた。29病棟が一般病棟、11病棟が回復期リハビリテーション病棟であり、看護師の平均年齢は34歳､平均経験年数は12年であった。すべての病棟がチームやグループなどの小集団で看護の提供を行っており、このうち、20病棟ではペアで患者を担当する方式をとっていた。ほとんどの病棟でリーダーの役割は業務調整および助言であり、医師や他職種との連絡は受け持ち看護師が実施していた。チーム活動の範囲については、目標管理等の組織活動も共有している病棟と、日々の看護ケア及び看護計画の展開の相互支援のみの病棟がみられた。

看護提供方式と看護師の仕事実感との関連について、病棟単位で平均値の差をみたところ、有意ではないものの、回復期リハビリテーション病棟の方が組織風土、仕事の満足度などの指標において、全体として高い得点の傾向が認められた。質の高いケアの実施については、下位領域によってどちらが高い得点であるかは異なっていた。また、ペア方式をとっている病棟、チームが目標管理などの組織活動を共有している病棟では、組織風土、仕事満足度、質の高いケアの実施において、下位領域全体としてそうでない病棟よりも高い得点であった。

病棟単位のサンプル数に限界があることから、個人単位の分析も実施した。病棟の種類にかかわらず、チームで目標管理などの組織活動を行っていることが、同僚間支援、柔軟性、改善に向けた提言など組織風土を中心とする多くの指標と有意に関連していた。職場および仕事の満足度については、チームでの組織活動に加え、ペア方式をとっていることも有意に関連していた。病棟の種類が関連していた指標は、改善に向けた提言、時間不足であり、いずれも急性期病床であることが否定的な関連を示した。

患者アウトカム指標の得点傾向については、ケアの不統一など一部の項目で病棟種類によって有意差が認められたものの、一貫した結果や、看護提供体制との明確な関連性は認められなかった。

2) 本研究の示唆

本研究では、看護提供方式とアウトカムの関連について調査を行い、看護提供方式が看護師にとっての職場環境と関連している可能性を示唆した。病棟種類ごとにみてもその結果が同様であったことから、その関連性にはある程度共通性があると考えられ、特にチーム活動を効果的に活用することの重要性が示唆された。日々の業務の中での相互支援と、仕事の改善のための相互支援が結びついていることが重要と考えられる。また、急性期病床ではより時間不足が認識されていたことから、その影響を緩和するという観点で、特にチーム活動の充実が有効であると考えられる。

3) 研究の限界と今後の課題

本研究では、サンプル数の限界から病棟単位での分析を充分に行うことができなかった。モデルの構築には、サンプル数の拡大により変数間の関連を詳細に見ていくこと、病床機能別の共通性や差異がどの程度あるのかを検討することが必要である。また、看護提供方式は組織管理の要素の一つであることから、今後の展望として、標準化の程度などの他の管理上の要因と合わせて調査・分析を行い、アウトカムに対する関連の程度や、他の要因との結びつきによる影響を検討することが必要であると考えられる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　1　件）

大西麻未.看護チームに求められる組織力-チームのイノベーションを可能にする革新的風土とは-. 看護管理 2015; 25(4): 294-299.

〔学会発表〕（計　2　件）

大西麻未，菅田勝也．看護師長の境界連結活動と看護チームの風土及びチームの有効性との関連．第20回日本看護管理学会学術集会；パシフィコ横浜，2016年8月19-20日，

神奈川県.
Onishi M. Relationship between nursing care delivery system and nurses' perceptions on their work. 33th Nursing and Health Care Congress; 2017 Oct 23-25; Toronto, Canada

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

○取得状況（計　0　件）

〔その他〕
ホームページ等 なし

６．研究組織
(1)研究代表者
大西　麻未（ONISHI, Mami）
順天堂大学・医療看護・准教授
研究者番号：10451767